



かし お がわ 柏尾川って昔はよく あふれたの？

かし お がわ 柏尾川の歴史は洪水の 歴史ともいえます。

柏尾川は、上流と河口との標高差が小さいため、流れがとても緩やかです。そのため、昔は流れてきた土砂がたまると、川床が周りの土地と同じような高さになってしまい、すぐにあふれてしまったそうです。

そこで、川の周りが田んぼだった頃から、川床を掘り下げたり堤防を造ったりして、洪水を防ぐ努力をしてきました。その後、田んぼが次第に住宅地や工場に変わり、洪水の被害が大きくなってきました。矢部町や上倉田町にできた集合住宅も、たびたび水浸しになり、ポートで避難をしました。

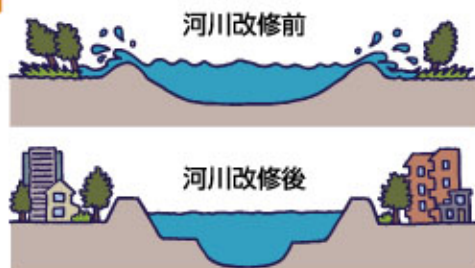


洪水被害の様子(1970年、上倉田町)
写真提供:名瀬小学校

か せん かいしゅう 河川改修を続けています。

1970年代には川の上流部でも都市化が進み、雨のしみこむ地面がさらに減って、洪水被害がさらに深刻化しました。そこで、1976(昭和51)年から川幅を

河川断面図



ひらげ、川床を掘り下げ、堤防を強くする工事(河川改修)といえます)を本格的に始めました。

栄区金井町には遊水地(詳しくはP.28~29を見てください)が完成し、大きな被害は1982年以降起きていません。河川改修は現在でも続いており、柏尾川のほか上流部の名瀬川、舞岡川などでも進められています。

水に親しめる空間づくりも始まりました。

かつては、川といえば洪水を防止する「治水」だけを考えていました。今日では、治水だけでなく、潤いのある水辺空間や様々な生き物のすみかとしての役割が見直され、川に親しめるよう「親水」の場づくりも行われています。

例えば、高水敷(詳しくはP.16~17を見てください)へ降りる階段や水辺に近づく階段型の岸辺を設けたりしています。また、コンクリートの護岸の中に土の岸辺を造って、生き物がすみやすくしている場所もあります。



階段型の護岸で水辺へ近づけます
(阿久和川かもめ橋付近)

柏尾川・神奈川県横浜治水事務所河川第二課 ☎411-2517
その他の川・横浜市下水道局河川管理課 ☎671-2855

問い合わせ先

